

秀麗富嶽十二景を歩く「高川山」976M

(報告) Fuka

◎山行期日：2017年 12月17日(日)

◎メンバー：Fuka(L)、Aka、Ino、Kawa、Kon、Mitsu、Saka、Tsuka、Nishi、Yama、Hagi、
Hamafusai、Furu、Fuji

冬の富士をじっくりと眺めようということで、企画しました。最初は岩殿山に登る予定でしたが、8月の台風で登山道が全て崩壊し、登山不能となりました。

予定を変更し、11番の高川山976mにしました。この日は快晴。真っ青な空が冬空に映えています。JR初狩駅で15名が顔合わせ。早速、歩き始めます。暫く歩くと「男坂・女坂」の分岐です。Akaさんは男坂を颯爽と登っていきます。他のメンバーはゆっくりと女坂。落ち葉を踏みながら笹原を行くと11時に頂上です。360度の展望。狭い山頂には約30人。人で溢れています。

ここには、かつてビッキーという名の犬がいたそうです。私は知らなかったのですが、何人もの参加者がその犬のことを知っていました。TVでも紹介されたそうです。山頂の祠にビッキーの資料のアルバムが3冊ほどありました。山梨日日新聞に紹介された「孤高な犬に教えられる」という2004年3月30日の読者欄の文を紹介します。

「近年の登山ブームの中、JR中央線沿線が一番人気があり登られている山は、大月市と都留市の境界にそびえる高川山といわれる。久しぶりにこの山を訪れた2月中旬、私は山頂にいる首輪を付け、やせた甲斐犬のような犬を目にした。飼い主とはぐれたのか、捨てられたのか不明だが、汚れてはいるものの岩塔上に姿勢を正して座り、じっと一点を見つめ誰かを待つような姿と、伸び放題のむだ毛、落ちくぼんだ目を見て、私は思わずパンを与



(孤高犬 ビッキー)

えた。しかし、そのパンもその場で食わず、山のあちこちへ埋める様子に、この犬がこの山頂にいた時間の長さ、未来への強固な意志を知らされた気がした。以降10回以上、朝晩、雨や雪の日も登ってきたが「今日も餌をくれるおやじが来たか」

という表情は見せても、しっぽも振らず、週末に山頂を埋めつくす登山者とも一定の距離を置き、こびることも、避けることもなく、人に従って下りようとしなない姿は孤高なものがあつた。何事かを教えられる気がしてならなかつた。ある登山者の話によると、昨年暮れにはいたという。飼い主をいわずに信じ待つ姿勢を崩さないその姿が「基本を忘れた人間の身勝手が今や政治や経済の乱れを呼び、荒廃した社会を甘受する無責任さを生んでいるのだ」と警鐘している気がしてならないと思うのは私だけであろうか。」

